

病床機能報告における定量的基準 「静岡方式」の導入（案）

～病床機能選択の目安～

静岡県健康福祉部
医療健康局医療政策課

1

< 内 容 >

I 導入の背景

- ・病床機能報告制度の現状と課題
- ・厚生労働省からの要請

II 定量的基準「静岡方式」

- ・「静岡方式」について
- ・「静岡方式」による基準
- ・「静岡方式」の位置付けと取り扱い

III 「静岡方式」の適用結果（参考）

I 導入の背景

3

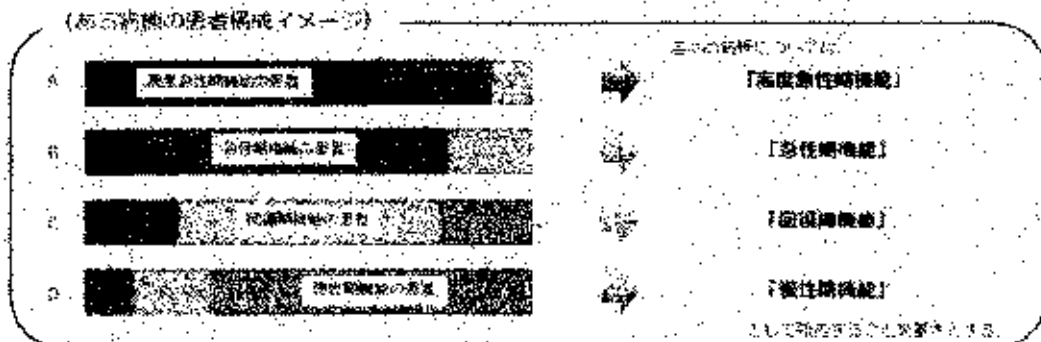
導入の背景 ～病床機能報告制度の現状と課題～

◆ 病床機能報告制度の現状と課題

病床機能報告においては、病棟が担う医療機能をいずれか1つ選択して報告しますが、実際の病棟には様々な病期の患者が入院していることから、当該病棟で最も多くの割合を占める患者に相当する機能を報告することを基本としています。

一方で、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の機能を区分する基準が不明瞭のため、現在報告されている内容の妥当性や実態の把握に課題があることが指摘されています。

【参考】医療機能の選択における基本的な考え方（厚生労働省「病床機能報告マニュアル」より）



4

◆ 厚生労働省からの要請

- ・病床機能報告の課題や一部府県を取組を踏まえ、厚生労働省から各都道府県に対して、地域医療構想調整会議の議論を活性化する観点から、地域の実情に応じた定量的な基準の導入を求める通知が发出されています。



厚生労働省

【参考】「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的な基準の導入について」（平成30年8月16日付厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）より

- ・病床機能報告に関しては、詳細な分析や検討が行われないうまま、回復期機能を担う病床が各構想区域で大幅に不足していると誤解させる事態が生じているという指摘がある。
- ・各都道府県においては、地域医療構想調整会議における議論を活性化する観点から、本年度中に、都道府県医師会などの医療関係者等と協議を経た上で、地域の実情に応じた定量的な基準を導入されたい。



静岡県においても、関係者の御意見を踏まえ、実情に応じた「定量的基準」を導入します

5

II 定量的基準「静岡方式」

定量的基準「静岡方式」について

<検討経緯>

- ・ 地域医療構想アドバイザーである浜松医科大学小林特任教授に作成を依頼
- ・ 静岡県医療対策協議会、各圏域の地域医療構想調整会議で議論を実施

<視点>

◆ 現場の病院事務職員の負担軽減

- ・ 日常診療で忙しい現場の関係者があまり労力を割かなくてもすむよう、極めてシンプルな定量的基準
- ・ 「特定入院料」「重症度、医療看護必要度」「平均在棟日数」「手術、放射線治療、化学療法」による区分

◆ 医療機能を選択する際の「目安」を提供

- ・ 医療機関の裁量的判断は許容することを前提

<機能区分の流れ>

- ① 特定入院料等からの区分(厚労省指針を大原則にして)



- ② 「高度急性期+急性期」グループと「回復期(在宅医療等相当を含む)」の振り分け



- ③ 病院の「高度急性期+急性期」グループから「高度急性期」を抽出

7

「静岡方式」の具体的な基準 (病院)

【病院の基準】

① 特定入院料等からの区分

- ◆ 救命救急、ICU、MFICU、NICU、GCU、CCU、PICU、SCU、HCU → 「高度急性期」
- ◆ 小児入院医療管理料1・2・3 → 「急性期」
- ◆ 回復期リハ、地域包括ケア、緩和ケア、小児入院医療管理料4・5 → 「回復期」
- ◆ 療養病棟入院料、障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料 → 「慢性期」



② 「高度急性期+急性期」グループと「回復期(在宅医療等相当を含む)」の振り分け

- ◆ 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」及び「平均在棟日数」
・ [I: 20%以上 II: 15%以上] かつ平均在棟日数21日以内 → 「高度急性期・急性期」
- ◆ 「手術」「放射線治療」「化学療法」件数
・ ベッド当たり 手術2件/月 or 放射線0.1件/月 or 化学療法1件/月以上 → 「高度急性期・急性期」
(点滴注射によるものを原則)
- ◆ 上記をひとつも満たさない病棟 → 「回復期(在宅医療等相当を含む)」



③ 「高度急性期+急性期」グループから「高度急性期」を抽出

- ◆ 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」及び「平均在棟日数」
・ [I: 35%以上 II: 30%以上] かつ平均在棟日数14日以内
→ 満たすものを「高度急性期」、満たさないものは「急性期」



8

【有床診療所の基準】

① 入院基本料からの区分

◆ 有床診療所療養病床入院基本料 → 「慢性期」



② 「急性期」と「回復期（在宅医療等相当を含む）」の振り分け

◆ 「手術」「放射線治療」「化学療法」件数

・ 「あり」ならば「急性期」

(目安)

ベッド当たり 手術1件/月以上 or 放射線治療あり or 化学療法0.5件/月以上
(点滴注射によるものを原則)

◆ 上記をひとつも満たさない診療所 → 「回復期（在宅医療等相当を含む）」

「訪問方式」における区分イメージ

医療機能	病院		有床診療所
	【特定入原料等からの区分】	【一般病棟の区分】	
高度急性期	救命救急 ICU・MICU・NICU・GCU CCU・PICU・SCU・HCU	重症医・医療・看護必要度Ⅰが 【Ⅰ:35%以上、Ⅱ:30%以上】 かつ平均在床日数14日以内	
急性期	小児入院医療管理料1・2・3	重症医・医療・看護必要度Ⅰが 【Ⅰ:20%以上、Ⅱ:15%以上】 かつ平均在床日数21日以内 手術あり(2件以上/月・ベッド) 放射線治療あり(0.1件以上/月・ベッド) 化学療法あり(1件以上/月・ベッド)	手術あり(1件以上/月・ベッド) 放射線治療あり 化学療法あり(0.5件以上/月・ベッド)
回復期	回復期介護病棟入院料 小児入院医療管理料4・5 緩和ケア病棟入院料 地域包括ケア病棟入院料	上記を1つも満たさない病院	上記、下記を1つも満たさない診療所
慢性期	療養病棟入院料 特殊疾患病棟入院料 障害者施設特入院基本料	-	有床診療所療養病床入院基本料

※「回復期」には地域医療構想の「在宅医療等」相当を含む。 ※化学療法は点滴注射によるものを原則とする。 ※区分は目安であり、医療機関の自主的判断も要する。

◆「静岡方式」の位置付け

- ・「静岡方式」については、病床機能報告制度の課題を踏まえ、より実態に近い内容となるよう努めるとともに調整会議の議論を活性化し、地域の実状を踏まえた医療機能の分化・連携を進めるための目安として活用します。

◆「静岡方式」の病床機能報告上の取り扱い

- ・基準はあくまで「目安」であり、病床機能の選択を強制するものではありません。
- ・各医療機関においては、これまでどおり自主的に病床機能を選択いただくこととなります。

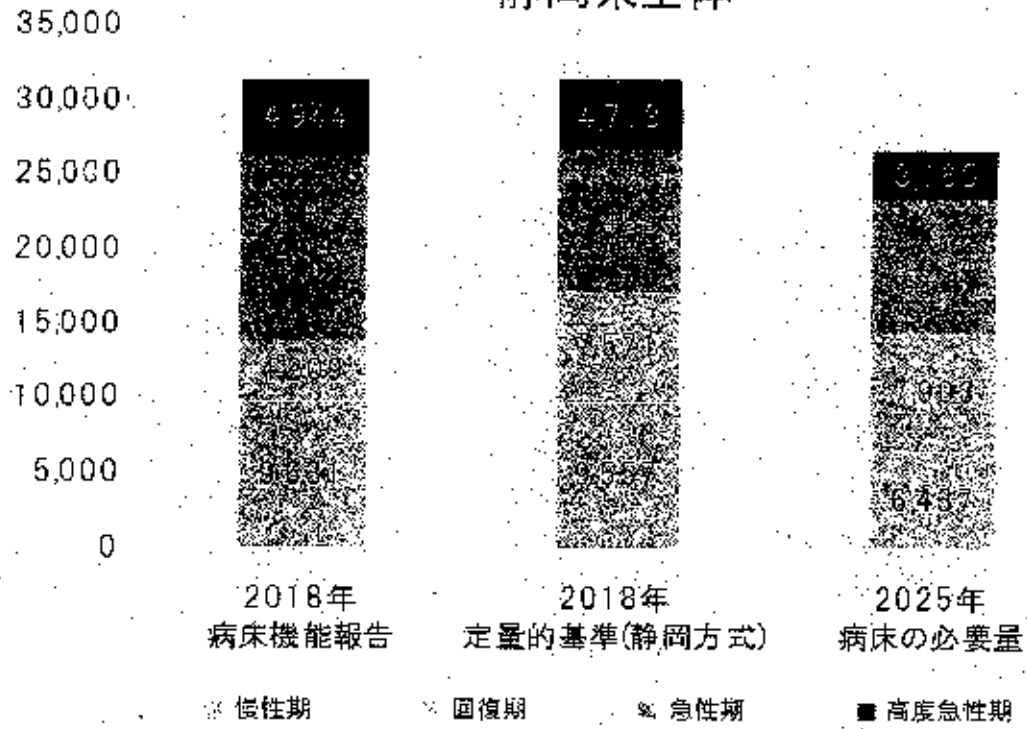
◆「静岡方式」適用後の病棟別データの取り扱い

- ・基準に沿った報告を求めるものではないため、病棟別データの公表は行いません。
- ・なお、参考に自院の区分を知りたいなどといった場合には、個別にお問い合わせいただければ対応いたします。

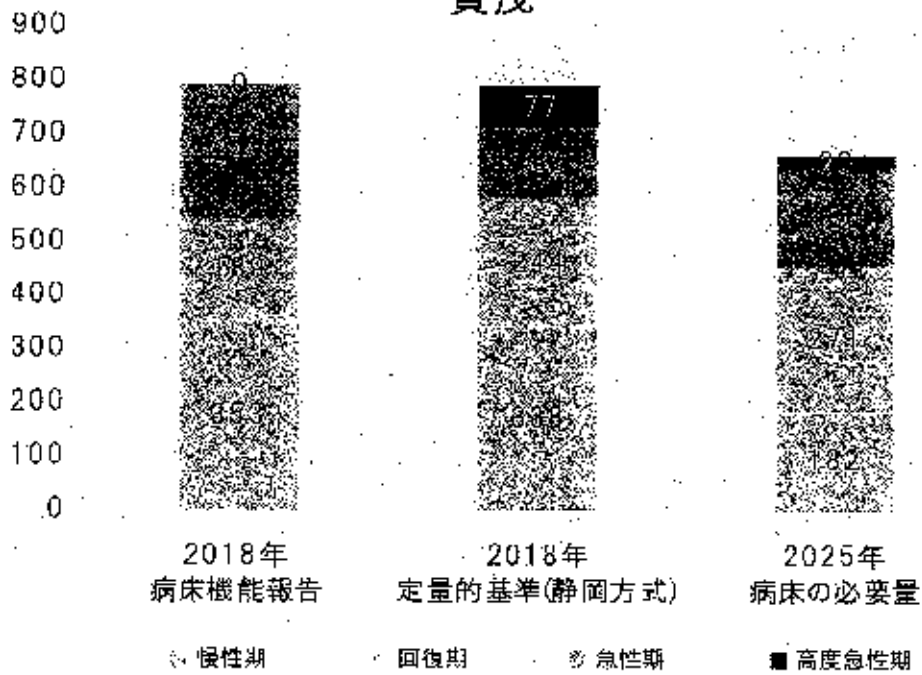
11

Ⅲ 参考：「静岡方式」の適用結果

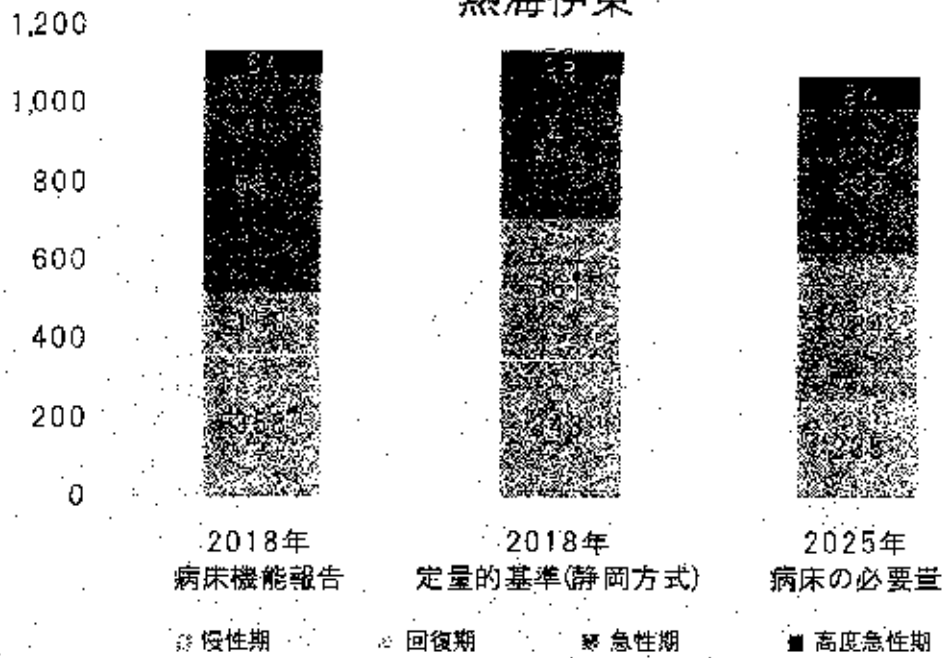
静岡県全体



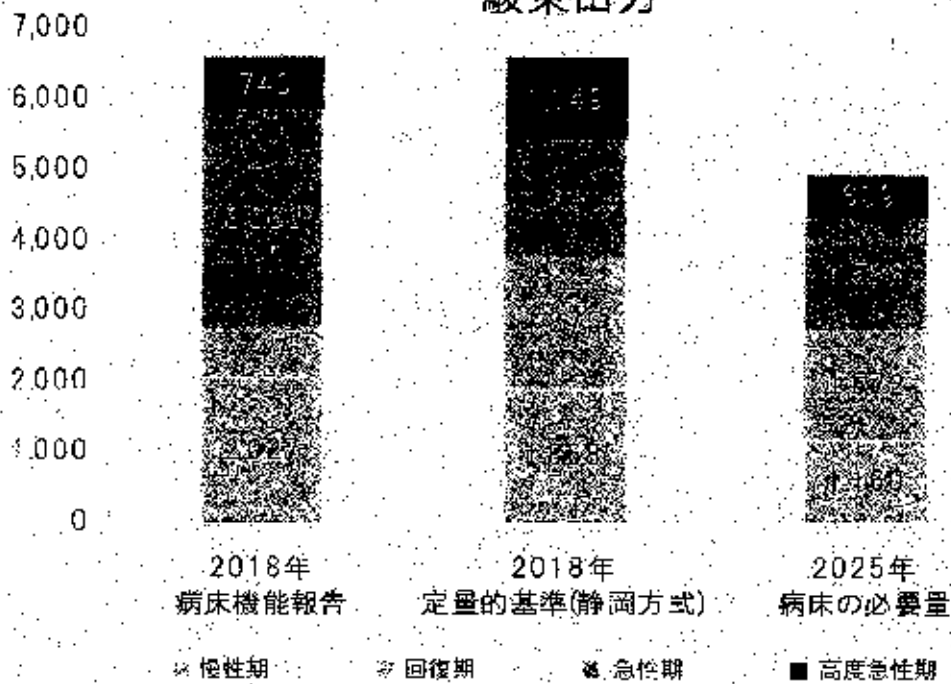
賀茂



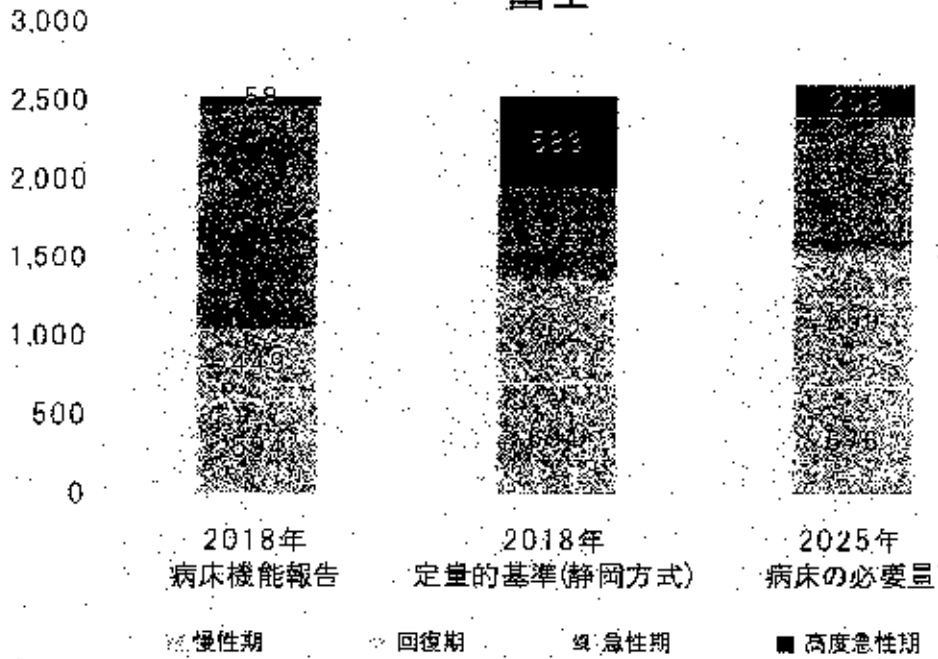
熱海伊東



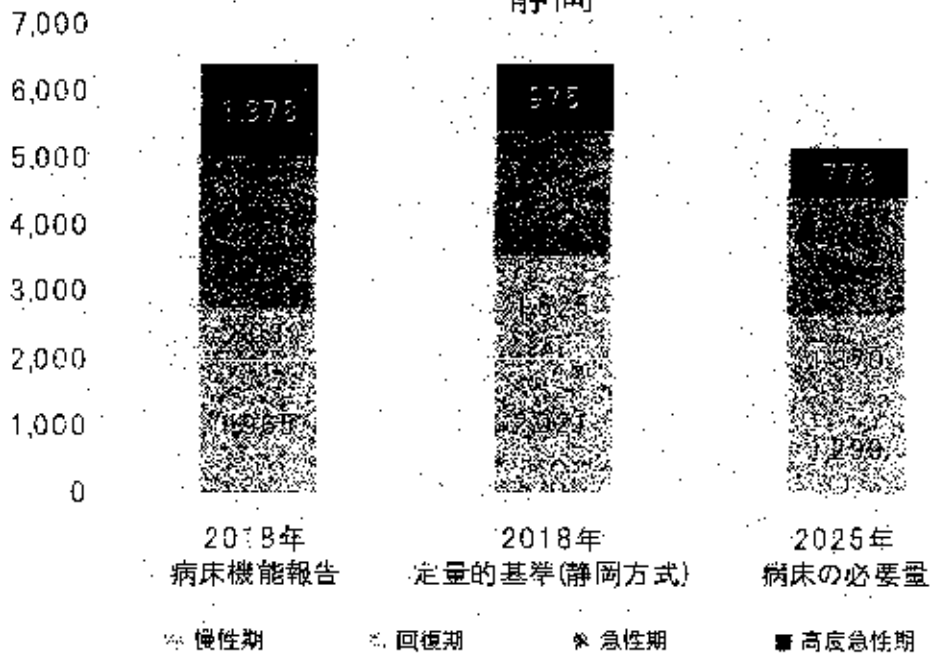
駿東田方



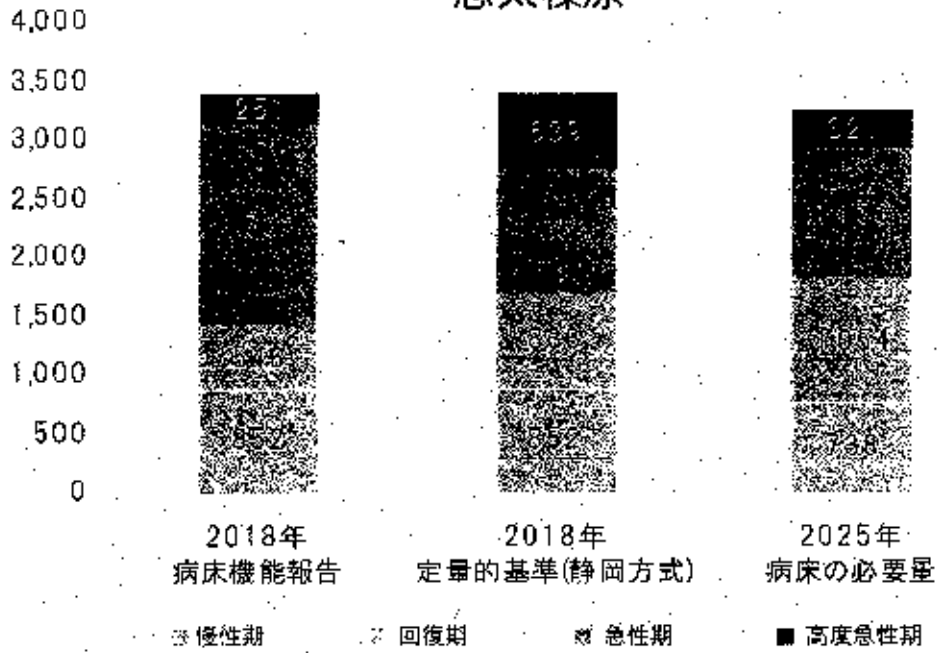
富士



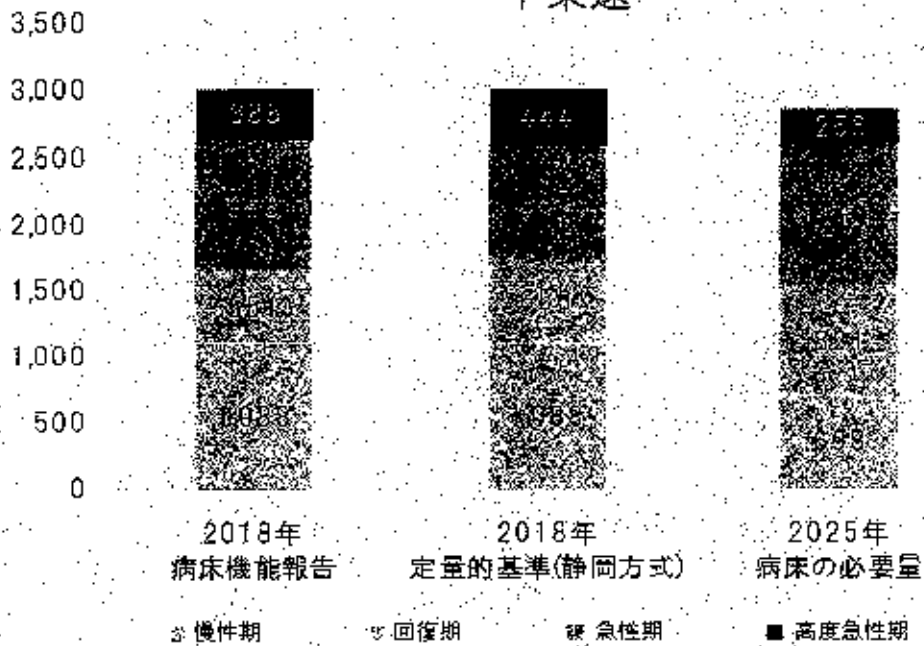
静岡



志太榛原



中東遠



西部

